



広島法務局尾道支局と尾道人権擁護委員協議会が実施した第44回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会で、「優秀賞」に選ばれた作文を紹介します。作品を通して、人権について改めて考えてみてください。

## 《好きと嫌いのすきま》 尾道市立向東中学校 3年 <sup>もり</sup> 森 <sup>そのみ</sup> 園美

私は、嫌なことをされると、その人のことが苦手になってしまいます。しかし、謝ってくれたり、優しい一面をみたりすると、すぐにどうでもよくなり、苦手ではなくなります。こんな私のことを、周りの人はよく「単純」だといいます。

あるとき、私は友達と話していました。すると、ある女の子の話になりました。私は、その子のことが好きでしたが、友達は苦手でした。その子が先生を手伝う場面を見ました。

友達は、「絶対、先生によく思われようとしてるよね。」と言いました。私は、優しいなと思って見ていたので驚きました。友達は、その子のどんな行動も悪い方向にもって行ってしまいます。

しかし、私にも似た経験があると気付きました。私には、とても仲が良く、大好きな友達があります。だからこそ、嫌なことを言われても、たいていの時は、すぐにどうでもよくなります。しかし、どうしてもモヤモヤした気持ちが消えないときがありました。そのとき、友達のことを苦手になりかけている自分に気付きました。そして、そんな自分が許せなくなりました。「友達だからこんなにイライラしちゃいけない」そうやって自分に何度も言い聞かせました。しかし、そう思うたびにさらにしんどくなっていることに気付きました。

「嫌い」だから相手の全てを否定しようとする、その人の優しさや新たな一面に気付くことができなと思います。そして、どんな言動も無意識のうちに悪く受け取ってしまうと思います。また、「好き」だから相手の全てを肯定しようとする、自分自身がともしんどいと思います。

だからこそ、「好き」でも「嫌い」でもないその間の気持ちを大切にしたいです。好きか嫌いかで判断しようとする、急いで自分の気持ちに結論を出してしまうと思います。しかし、相手のことをあまり知らないときや周りに合わせてしまったときに結論を出してしまうと、本当の気持ちに気付くことができないままになってしまいます。

自分がその人のことをどう思うか判断するなら、じっくり時間をかけてお互いのことを知るべきだと思います。そうすると、自分の本当の気持ちに気付くことができると思います。

そうして気付いた気持ちなら、もし、出した結論が「好き」でなくても、相手を理解しようとしたことが、大切な一歩だと思います。また、必ず判断しなければいけないとも思いません。「まだ分からない」という結論でもいいと思います。

多くの人は、人を判断するときに「この人は好き」、「この人は嫌い」と、はっきりと感情を分けようとします。しかし、きっと人間の感情はもっと複雑です。だから、すぐに自分の気持ちを決めずに、ゆっくりと自分の本当の気持ちを見つけることが大切だと考えます。「苦手だけど、ここは好き」「好きだけど、ここは苦手」。そのような曖昧な感情も大切だと思います。人の人権を大切にするなら、自分も含まれると思います。

誰かのことを「苦手」「嫌い」と思うことは、決して悪いことではないと思います。それは、人間にとって当たり前のことだと思うからです。むしろ、そう感じる気持ちを否定してしまうほうが、あまりよくないと思います。大切なことは、相手がどんな人なのか自分で知ろうとすることだと考えます。

私は、自分の「単純」という性格が少し嫌でした。簡単に、だまされてしまうかもしれないからです。しかし、私はこの性格のおかげで、相手のことをいろいろな面でみることができていると感じます。そして、みんなのことを自然と「好き」になっています。また、「どっちでもない」「分からない」と思う自分の気持ちに正直に向き合うことができていると思います。これからも、自分を含めた周りの人としっかり向き合い、みんなのことを大切にできるような人間になれるように頑張ります。

■人権男女共同参画課(☎0848-37-2631)